

● 短期アウトカム（目指す状態）／2027年2月ごろ

本事業と一緒に取り組む実行団体とともに、資金分配団体が実現したいアウトカム（目指す状態／1実行団体あたり）を以下のように考えています。ただし、申請設定するアウトカムについては、申請団体や地域特性、知見、資源を活かした提案も歓迎します。

短期アウトカム	指標	目標値・状態
実行団体の事業実施の結果、農業を通じて地域の就労困難者が生き生きと就労できている。	就労者の能力やモチベーション	就労者、受入農家、福祉法人等へのアンケートやヒアリングの結果、就労者の能力やモチベーション（できること、出勤率、労働意欲）が向上している。
事業実施地域において、実行団体の農福連携の推進機能が強化され、福祉法人・就労困難者と農業法人への積極的なマッチングが進んだ結果、多様かつ複数の福祉法人と農業法人との連携が進み、農業に参加する就労困難者が増加している。	① 本事業に関わる就労困難者の数 ② 本事業で就労できた就労困難者の数 ③ 就労困難者の多様性（障がい者（A型・B型）、ひきこもり等）	① 実人数で200名以上増える ② 実人数で50名以上増える ③ さまざまな就労困難者（障がいの種類や程度、事情、特性など）が受け入れられている（いずれも福祉法人との請負契約等を含む）
資金分配団体による研修への参加の結果、農福推進リーダーと農業就労サポーターが地域の農福連携の取り組みを推進、支えている。	① 農福推進リーダーの数 ② 農業就労サポーターの数 ③ 農業就労サポーターの多様性	① 1人以上 ② 20名以上 ③ 複数の属性（農業法人他、企業人ボランティア、地域住民等）
事業実施地域において、農福連携説明会・就労体験会の実施の結果、福祉法人、農業法人双方の農福連携への理解が深まり、参画者が増加している。	① 開催の数 ② 参加者の数 ③ 参画福祉法人の数 ④ 受入農業法人の数	① 年に1回以上 ② 年に20人以上 ③ 3年間で10以上 ④ 3年間で5以上
事業実施地域において、取り組みの発信、ボランティア体験会の実施の結果、農福連携への理解が進み、農作業や販売における地域住民や企業等からのボランティア等、事業への理解・支援者である農福応援団を獲得・定着している。	① ボランティアに参加する企業等の数 ② ボランティアの数 ③ ボランティアの多様性（職業、関わり方） ④ 協業形態の多様性	① 1つ以上増える ② 20名以上増える ③ 企業や地域住民・学生など多様なボランティアが多様な形で関わっている ④ ボランティア以外のパートナーシップが生まれている（購入ルート等）

事業実施地域において、作業分解の取り組みや施設整備、就労困難者の作業習熟により、全体としての生産性が上がり、生産量が増加している。	生産性の向上（労働時間に対する成果物の増加）	平均 10%の向上
事業実施地域において、新規商品開発、協力企業の獲得、新規販売ルートへの営業等を通じて、農福連携を通じた農作物や六次化商品の種類が増え、販路が拡大し、地域農業にも寄与している。	<ul style="list-style-type: none"> ① 生産品目の増加 ② 農福連携を通じた農作物の販売ルートの確保 ③ 農福連携を通じた農作物の販売先の数 ④ 地域マルシェの開催や参加 	<ul style="list-style-type: none"> ① 1種類以上増える ② 1つ以上増える ③ 5か所以上増える ④ 年に2回以上